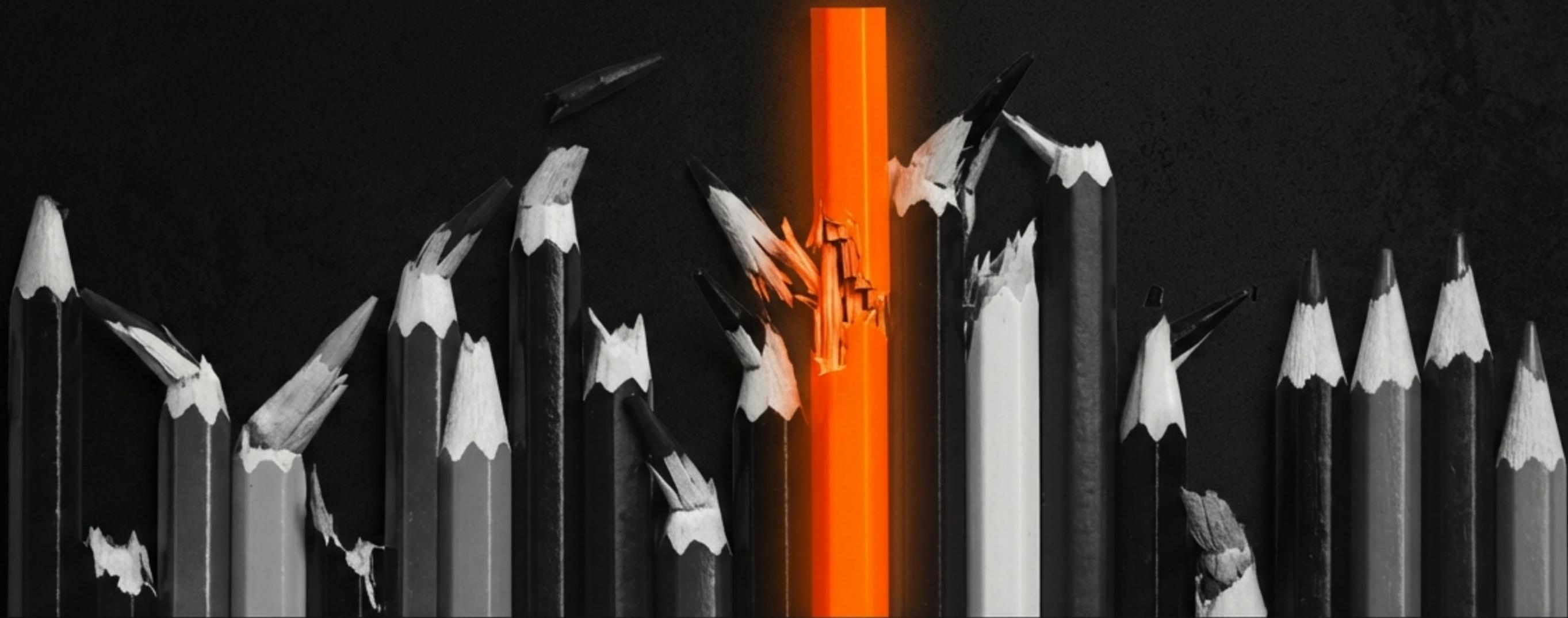


科学が証明した『残酷すぎる成功法則』

9割が知らない「常識」のバグと、人生を攻略する「科学的裏技」。



Based on the book by Eric Barker. Presented by Phoenix-Aichi.

なぜ、「学校の優等生」は世界を変えられないのか？

THE TRAP

学校のルール = 順守

学校のルール = 順守

THE REALITY

社会のルール = 偏愛

社会のルール = 偏愛

追跡調査の結果：
高校の首席卒業生（81名）の中で、
世界を変革した人は「ゼロ」だった。

学校は「平均点」を愛し、社会は「偏愛」を愛する。

学校 (School)



- ルールが明確
- すべて平均点以上
- 結果：優秀だが「無難」

実社会 (Real World)

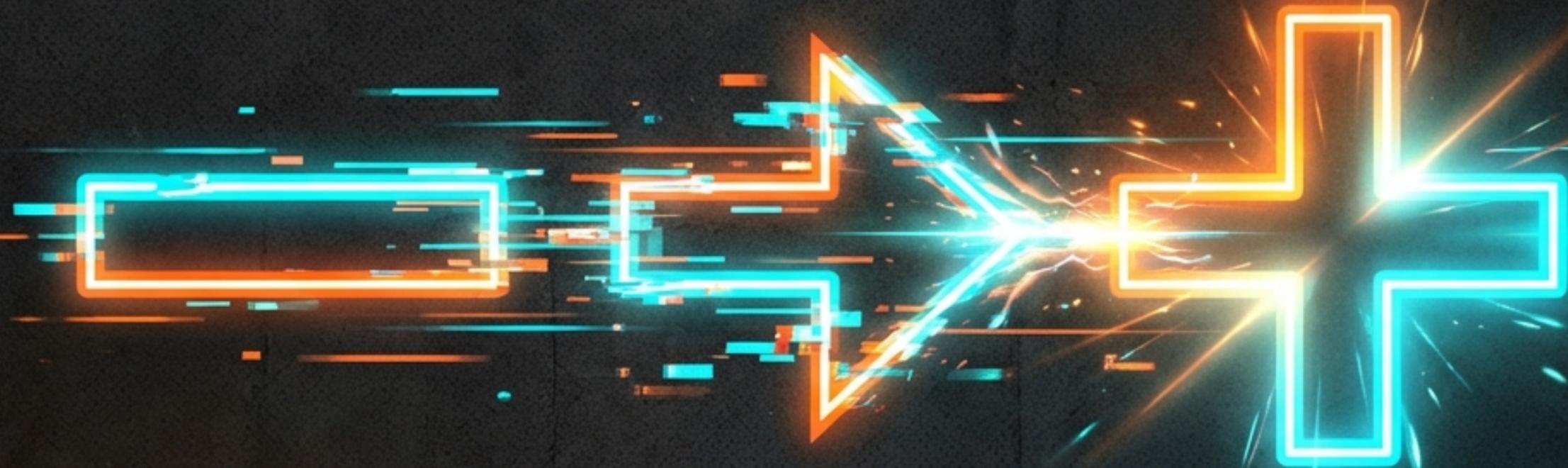


- ルールがない
- 一点突破のオタク
- 結果：世界を変える

ルールがない社会で、優等生は迷子になる。

武器①：増強装置（インテンシファイア）

あなたの「弱点」は、文脈次第で「最強の武器」に反転する。



Noto Sans JP Regular

【ふるいにかけていないリーダー】

一般社会では「欠点」とされる特性が、特定の環境下で「圧倒的な強み」になる現象。

ケーススタディ：マイケル・フェルプス

・注意欠陥多動性障害 (ADHD)

・長い胴体 / 短い脚

・大きすぎる手足

陸上 (教室)
= 不器用・問題児

水中 (プール)
= 物理学的天才

欠点を直すな。「水」を探せ。

武器②：グリット（やり抜く力）



精神論ではない。「物語」の科学だ。

グリットとは、筋肉の強さではない。

「苦しい時に、自分にどんなストーリーを語って聞かせるか」で決まる。

脳内の「つぶやき」を書き換える。

米海軍特殊部隊（ネイビーシールズ）の実験

- ・ 介入：ポジティブなセルフトークを指導
- ・ 結果：合格者が100%増加

人間は1分間に300～1000語を脳内でつぶやいている。

「もう無理だ」を「成長のチャンスだ」に書き換えるだけで、身体能力は変化する。

武器③：ゲーミフィケーション



- 仕事が辛いのではない。
ゲームバランスが悪いだけだ。
- 脳は「**退屈**」を嫌う。
- 現実がつまらないなら、
その上に「**ゲームのUI**」を重ねる。

「熱狂」を生み出す4つのルール(WNGF)

Winnable (勝てる)
小さな勝利条件を設定せよ

Novel (斬新さ)
マンネリを防ぐ新しい刺激

Goals (目標)
明確なターゲット

**Feedback
(フィードバック)**
自らスコアを確認する

「自信」という名の甘い罠。

自信不足

恐怖・麻痺・行動不能

自信過剰

傲慢・現実逃避・助言無視

「自信」は不安定なエンジンだ。
もっと良い燃料がある。

最強のOS：セルフ・コンパッション (自分への慈悲)

失敗した時、親友にならどう声をかけるか？

その言葉を、自分自身にかける技術。

- ・セルフエスティーム (自信) = 「私はすごい」 (脆い)
- ・セルフコンパッション (慈悲) = 「失敗しても大丈夫」 (折れない)

人生を攻略する「裏技」 インベントリ



Spec:

スペシャリストになる

スペシャリストになるは、徹底的的など、サ
ンクルに備じめることをアリブタシさせる。



Engine:

ポジティブ・セルフトーク

ポジティブ・セルフトークを目的に操騰してい
る、自分自身が自分にかかることがある。



Weapon:

増強装置 (インテンシファイア)

増強装置にインテンシファイアは、経費な
たちに、インテンシファイア) を能接着する。



System:

ゲーミフィケーション (WNGF)

ゲーミフィケーション、WNGFとオーゾンによ
り、チャリックをは麗り戦ける技術がある。



Defense:

セルフ・コンパッション

自分にセルフ・コンパッションを操騰してい
て、様々なより切りを免けな方がある。

魔法の杖はない。 あるのは「デザイン」だけだ。

Noto Sans JP Regular

世界に、万人に共通する成功法則は存在しない。

「適者生存」とは「強い者」ではなく、

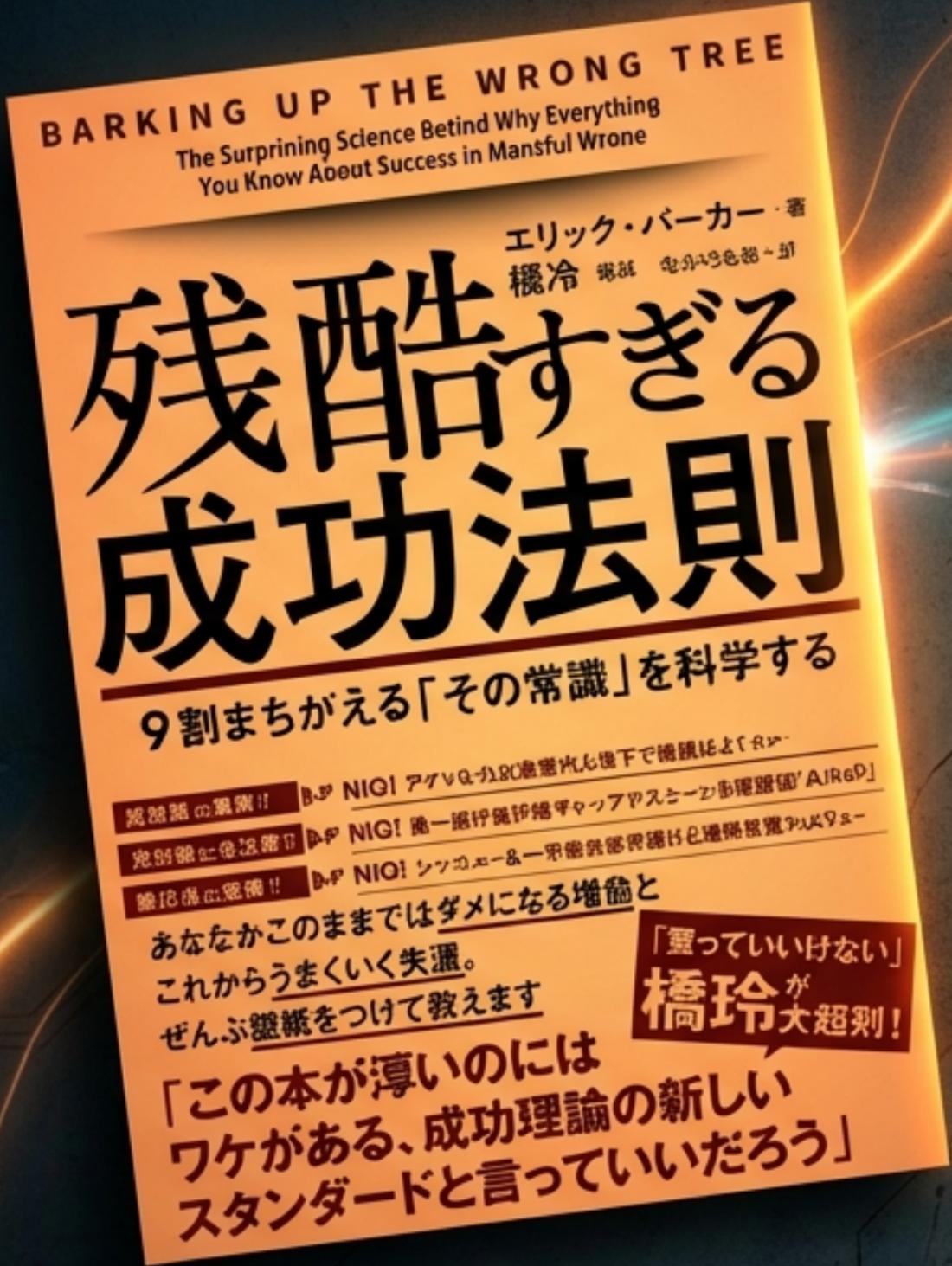
「環境にフィットした者」が生き残ること。

あなたの環境を、あなたが選べ。



「常識」を捨てる。「自分」を生きる。

あなたの違和感は間違いじゃない。それは、あなただけの「増強装置」の種だ。



【参考文献】

エリック・バーカー著 『残酷すぎる成功法則』

Produced by: Phoenix-Aichi Online School
Writer: Kota (Public Relations)

Please visit our blog for more insights.